

## 第 15 回むつ市市民協働まちづくり会議 会議録

1 日 時 平成 27 年 10 月 5 日（月） 18 時～21 時

2 場 所 むつ市役所本庁舎第 3 会議室

3 出席者 【委員 12 名、市職員 1 名】

伊藤和子委員	菊池三十義委員	久保咲絵委員
久保里砂子委員	工藤 薫委員	桜田真佐委員
竹内博之委員	傳法久昭委員	中川 渉委員
馬場久美子委員	福田貴宏委員	松岡敦子委員
教育委員会総務課	二本柳 愛	

【アドバイザー】

studio-L 醍醐孝典

【事務局 2 名】

市民連携課主任主査 山崎 学  
市民連携課主事 山田侑季

4 欠席者 【委員 4 名、市職員 4 名】

国田とき子委員	立石 圭委員	向井正大委員	米田さとみ委員
生活福祉課 成田一郎		商工観光課 鎌田隆夫	
公営企業局施設課 蛭名貴大		大畑庁舎管理課 成田寿美歌	

5 会議録確認者 松岡敦子委員 馬場久美子委員

## 会 議 概 要

### 1 会長あいさつ

(会長)

最近、小山薫堂さん（放送作家、脚本家、東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科学科長）の本を読んだ。本の内容は、いかにして筆者が考えずに楽をして生きているかということだったが、やっていることは「ブランドハプスタンス」的なことだった。まずは、自分の考えをみんなに伝えて、種を蒔いておく。そこで生まれる偶然をとっても大切にしながら形にしている。そしてすぐ前向きに考えて、人の意見に勝手に乗っかる。これは、「Yes,and」的な考えで、もっとこうしたら良いことができるのでは？という話の延長線上にあるのではないかと、私は解釈している。そのようなことを自然にできる人は素晴らしいと思うし、自分もそうなりたいと思う。10月17日に薬研で開催される「ミナカダ祭」も、一つの偶然から生まれたもの。私が所属している「イカす大畑カダル団」の代表が、「森の中で文化祭的なことをやってみたらどうか？」という一言がきっかけとなり、みんなイメージしていたことが少しずつ形になっていった。ちょっとしたきっかけが大きくなっていく。それにプレーヤーとして、自分も主体的に参加していく。

### 2 まちづくりプラットフォームへ情報を提供した団体と行うワークショップのデザイン

- 事務局から前回会議で検討した内容に基づき、「人と人をつなげるチーム」と検討したコンセプトを説明。
- 当初11月1日に開催する予定であったが、むつ市民文化祭に重なるため、日程を変更。
- 回数も1回だけでなく、2回開催した方がより深く話し合いを行えると考え、11月15日(日)午後1時30分からと、11月30日(月)午後6時からの2回セットで開催することとした。

(アドバイザー)

2回のワークショップの中身はある程度決めておきたい。今回まちづくり会議委員でワークショップを企画して実施することは、とても良い経験になると思う。ワークショップとは、何かを生み出す、作り出す場。楽しい場をどのようにして作り出していくかということが今回のポイント。最近ワークショップに関する本が出版されているので勉強して欲しいが、本を読むだけでは身につかない。実践とセットでないと難しい。芸工大の学生にも、どんどん現場で実践を積み重ねている。ワークショップは、テーブルファシリテーターと参加者個人個人の色々な要素が積み重なって進行されていく。ファシリテーターは、その人たちの知識・経験・センスなどを上手くファシリテーションする必要がある。参加者が色々と意見交換する中で触発されながら、学びと発見が創造される。この辺を意識して欲しい。

ワークショップデザインの大まかな流れとして、コンセプトは設定したので、今日はプログラムの方針・型を決める。ポイントはワークでどんな問いを設定するのか。最終的に問いは、明快かつシンプルに。

【3つのテーブルに分かれ、2日間のプログラムを検討】

### 3 テーブルごとに発表

#### ◆テーブル1

まずは最初の1時間をしっかり使い、全体で自己紹介を行う。次の1時間は、各団体で共通の課題の抽出とやりたいこと。それをどうすればできるのか。自分たちでできることは何かということ話し合う。まとめと発表を入れて1時間。または、プラットフォームのちょっとした事例などを醍醐さんから話してもらおう。あなたも主役ということ意識づけるような話をして欲しい。2日目はアイスブレイクから始まり、1日目の振り返りを行ってからワークに入る。ワークの内容は、自分たちでできる企画を考えてみる。最後に、醍醐さんから“協働”をキーワードに、少し話してもらおう。全体的には堅苦しくなく、ゆるい感じで行いたい。

#### ◆テーブル3

1日目は30分位で自己紹介からスタート。次は、団体の運営についての悩みや課題を出してもらおう。これを80分程度行う。中には、特に困っている団体もない場合もありえる。そのような団体から、なぜ団体運営が上手くいっているのかなどを話してもらい、全体で共有したい。その後は発表を行い、1日目は終了。2日目は1日目に出た課題に対して、自分たちが今できること、今後できることを時間軸で区切って話し合いを行う。その中で、誰がやるのかや自分は何ができるのか、行政等をお願いしたいことをファシリテーターがポイントを押さえながら進めていければ良い。なお、2日目の最初も自己紹介を行う。1日目と2日目のメンバーが同じとは限らないため。最後は全体の共有として発表してもらい、醍醐さんからまとめの話をしてもらう。一つ課題として、このワークショップの意義をどのようにして参加者に伝えるか。このワークショップに参加して、どんなメリットがあるかなどを事前に配布する。むつ市を盛り上げたいと思っている団体もあれば、趣味のレベルでやっけていてまちのためには思っていない団体もあると思うので、その温度差をどう埋めていくかも課題。

#### ◆テーブル2

参加者にコンセプトを共有してもらえように、1日目の最初に全体で事例紹介をする時間を作る。この会がどういう目的なのか共有してもらい、その後、グループごとに自己紹介。団体の紹介ではなく個人の紹介をする。次にアイスブレイクで仲間になってもらう。1日目のワークショップのテーマは、お互いを知ること。まず一つ目は各団体がどんな活動をしているのかふせんに書いてもらう。貼っていきながら活動を分類していく。小分けに書いて貼ることにより、意見が出てきやすくなると思う。次のお題は、得意なことと不得意なことについて。それで出てきた得意なことと不得意なことに共感シールを貼ってもらいながら共有してもらう。ここに来ている団体の活動や得意不得意がざっくりわかるようなことを1日目に実施したい。2日目は、1日目でざっくりわかったことをファシリテーターに話してもらおう。2日目はワールドカフェ形式でより多くの団体の人と話ができるような場にしたい。後で関心のある団体とより深く話せるように、ワールドカフェを行い、色々な団体と知り合えるようにしたい。最後に、協働とはどうゆうことなのか事例紹介的に全体で話すような時間をとり、これからつながっていきましょう！という感じで実施できればと思う。

(アドバイザー)

結構共通点がある。まずは自己紹介が 2 パターン。各団体ベースのものと、個人ベースで話してから、ワークで各団体の活動を知ってもらうパターン。1 日目は各団体のことについて話してもらい、共通理解してもらうこと。市内には色々な団体があり、色々な活動をしている。このようなことをみんなで知り合うことが 1 日目の大事な流れになるのかと思う。2 日目は活動団体ベースで今できることと、これからできることを見据えながら、協働の話に持っていく案。企画ベースでこれからのことを自分たちで可能性を考えながら協働に持っていくという案。1 日目からより深く多くの人たちと知り合えるように、ワールドカフェ形式で協働につなげるという案。流れとしては 3 グループとも共通点はあると思った。

次に趣旨説明はどうするか。市がやるのか、まちづくりメンバーが説明するのか。その後の自己紹介。やり方はどうするか。課題の話から入るのか、強みの話もしていこうという 3 班の案もあった。2 班のように自己紹介をより深くしてもらうのか。そのなかでも課題は出てくると思う。各団体についてよりわかるワークをする。強み・魅力にするのか、活動自体のマッピングをするのか、ここはいろいろなパターンがあると思う。どちらがいいのかは今後の課題。次のワークは時間によって違うかもしれないが、1 班の話だと、やりたいことをどうやってできるか、2 班だと、得意なこと不得意なことをテーマにシールを使ってやっていこうという感じ。ここをどうするかは上手く整理して決めていく。2 日目はまず振り返り。最後は協働に流していく。ここをどうするか。ワールドカフェも多くの人と知り合うことではいいかもしれない。時間軸でやるのもいいかも。企画ベースでやるか。テーマは決まっていなくてもワールドカフェ形式が良いと思う。

【テーブルごとの検討結果を整理し、後日「人と人をつなげる」チームと事務局で詳細を協議することとした】

#### 4 アクションプロジェクトチームの取組状況の報告

【「高齢者・福祉チーム」の介護予防運動講習会の取組を事務局から紹介】

#### 5 その他

【アドバイザーから「今宵サミット in 燕」のお知らせ】